

能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第3号 発行日：令和6年4月15日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー活動報告

【4月10日・11日 寺分 平等寺】

平等寺は本堂裏で大規模な土砂崩れが発生し、町指定文化財などが保管されている倉庫が損傷して、出入りができない状態となっていました。

そこで、地元建設業者の協力で足場を設置し、2階の窓から内部への進入を試みました。内部は床が斜めになり、雨漏りも発生していました。掛け軸などに水がかかって濡れた状態（水損^{すいそん}）のものも多く、重ねられた本がくっついてしまったり（固着^{こちやく}）、虫やカビが発生してしいたりと、状態が良くない資料も数多く見られました。また、カメムシも時節柄多く、防塵マスクを使用して作業にあたりました。

倉庫内からバケツリレー方式で資料が運び出され、救出された資料はクッション材や段ボールを使って梱包し、保管施設へ運びこみました。

施設では、改めて救出された資料の状態を一つ一つ確認し、水損資料については、なるべく一点一点を不織布で包み、ビニール袋に入れて、段ボール箱に収納していきました。この後、冷凍保存をすることにより、資料のさらなる状態悪化を防ぐことができます。また、虫などが付着している場合は、できるだけハケなどを使って除去します。掛け軸などの絵画は、使われている絵具やデン



地震と土砂崩れの影響で損壊した倉庫



雨漏りでカビが発生している室内

ブシ糊の影響で固着する可能性があるため、慎重に広げて自然乾燥させるなどの処理をおこないました。今回の場合、石川県文化財保存修復工房の専門家にも依頼し、処置作業にあたっていただきました。



水損によりカビに覆われた掛け軸



救出した資料の梱包



保管施設で水損資料を不織布で包む



虫が付着していたため除去

発見された資料から

平等寺でのレスキュー作業中に、
版木ほんぎが大量に見つかりました。

版木は、印刷したい文字や絵を鏡に映ったように逆向きに木の板へ彫り出し、墨などを塗って紙に押し当てて印刷するものです。

寺院では、法要などに際してお札などを作って配布することがあり、版木がその作成に用いられました。見つかった版木は、仏の姿や梵字(サンスクリット語)、「御祈禱札」などと彫られたものなど多種多様で、

様々な場面で用いられていたのでしょう。寺院の活動を知ることができる、貴重な資料です。



本紙は町 HP からも見ることができます

https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872

